

ユーザーマニュアル

Logi Recover

ユーザーマニュアル

全22機能の詳しい使い方と、それぞれが「どんな場面で」「どんな悩みを抱えた人に」役立つのかを、画面つきで解説します。

- Windows 10 / 11 対応
- 全機能を網羅
- 対応環境: v1.0 スコープ

Contents



Chapter 1

ドライブを選ぶ

F-01



Chapter 3

スキャンを実行する

F-04 ~ F-07



Chapter 5

復旧する

F-12 / F-13



Chapter 7

長時間の作業を楽にする

F-15 / F-22



Chapter 9

アプリの設定と情報

F-19 ~ F-21



Chapter 2

スキャン対象とモードを選ぶ

F-02 / F-03 / F-18



Chapter 4

結果を確認する

F-08 ~ F-11



Chapter 6

履歴を振り返る

F-14



Chapter 8

ディスクイメージを活用する

F-16 / F-17



付録

リファレンス集

対応環境・用語集 等

Logi Recover とは

USB メモリー・SD カード・外付け HDD/SSD・内蔵 HDD/SSD を対象に、ファイルシステムの破損や誤削除で見えなくなったファイルを、読み取り専用でスキャンして別の保存先へ復旧する、Windows 向けデスクトップアプリです。

完全オフライン動作



クラウド送信・テレメトリ・自動更新なし

復旧元への書き込みゼロ



常に読み取り専用でアクセス

2種類の復旧手法



メタデータ走査 と ファイルカービング

NTFS / FAT / exFAT 対応



主要ファイルシステムを自前実装

TB級ディスクにも対応



大容量ディスクを逐次処理でスキャン

2大ユースケースをカバー



FS破損からの復旧 と 誤削除の復旧

※ 対象外：物理破損したストレージの修理／暗号化ボリュームの解読／業務用フォレンジック機能／ネットワーク越しのリモートストレージ

対象ユーザーと解決する課題

想定ユーザー

- ✓ 自宅の PC で USB メモリー・SD カード・外付け HDD/SSD を使う一般ユーザー
- ✓ 「フォーマットしてください」と出て困った人
- ✓ ゴミ箱を空にした直後に気づいた人
- ✓ IT の専門用語に詳しくない人（想定に含む）

※ 業務向け（フォレンジック・データセンター運用）は当面ターゲットにしません

解決したい課題（重要度）

ファイルシステムが壊れ、OSから中身が見えなくなった

★★★★

うっかりファイルを削除・ゴミ箱を空にしてしまった

★★★★

既存ツールはクラウド送信を伴い、機密ファイルを預けたくない

★★★★

既存ツールはUIが難解で、何をすれば安全か分からない

★★★☆☆

既存ツールで「うっかり復旧元へ上書き保存」の二次被害が起きる

★★★★

基本の操作フロー



アプリ画面上部の「①対象を選ぶ→②スキャン→③復旧」ステッパーが、いま3ステップのどこにいるかを常に表示します。

復旧元は常に読み取り専用でオープンされ、復旧先には復旧元と同じ物理ドライブを選べません。この2点が仕組みとして徹底されているため、スキャンして確認するだけなら、操作を誤っても復旧元のデータが壊れることはありません。

本マニュアルは、この6段階に沿って Chapter 1～6 で各機能を解説し、Chapter 7～9 で応用機能・設定を扱います。

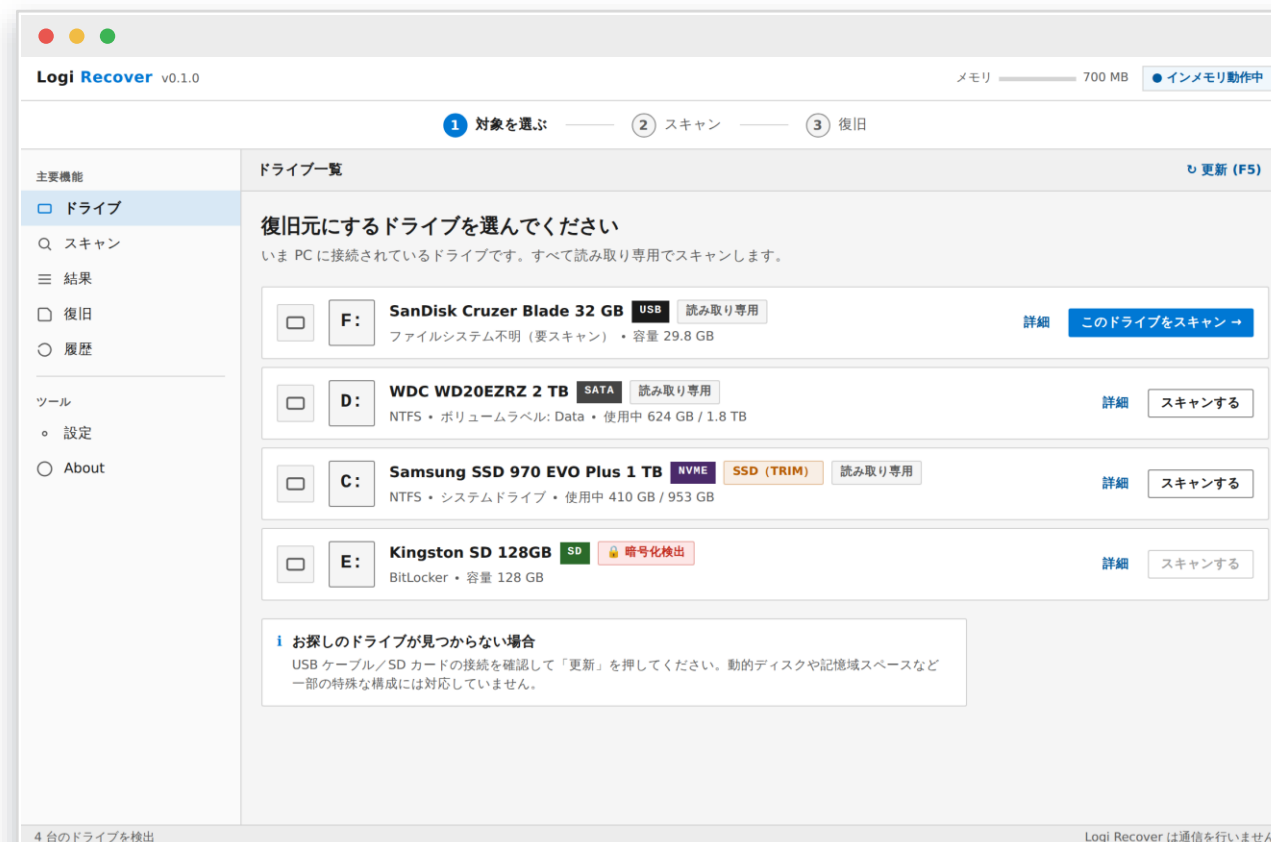


ドライブを選ぶ

アプリを起動して最初に表示される画面です。復旧元にするドライブをここで選びます。

デバイス一覧表示

- ✓ 起動直後、PC に接続中の物理ディスク・パーティションを自動で一覧表示します
- ✓ メーカー名・モデル名・容量・接続種別（USB / SATA / NVMe / SD）・ボリュームラベルをカードで表示
- ✓ 同じ物理ディスク内の複数パーティションは、親子関係がわかるよう階層表示されます
- ✓ 一覧はワンクリック（または F5）で再取得でき、あとから挿したドライブも反映できます
- ✓ 暗号化ボリュームや非対応構成（動的ディスク等）は、その場でバッジが表示されます
- ✓ Google ドライブ・OneDrive など、物理ディスクの裏付けがない仮想ドライブは自動的に除外されます



こんなユースケースで使う

USB メモリーや外付け HDD を挿した直後、「どれが目的のドライブか」を容量やラベルを見て確実に選びたいとき。



こんな悩みに便利

『色々繋がっていてどれだか分からない』人のために、接続種別やドライブレターを大きく表示。Google ドライブ等の紛らわしい仮想ドライブも最初から出てこないで、間違えようがありません。



スキャン対象とモードを選ぶ

対象デバイスとスキャンの深さを選びます。暗号化ボリュームの場合は、ここで先に教えてくれます。

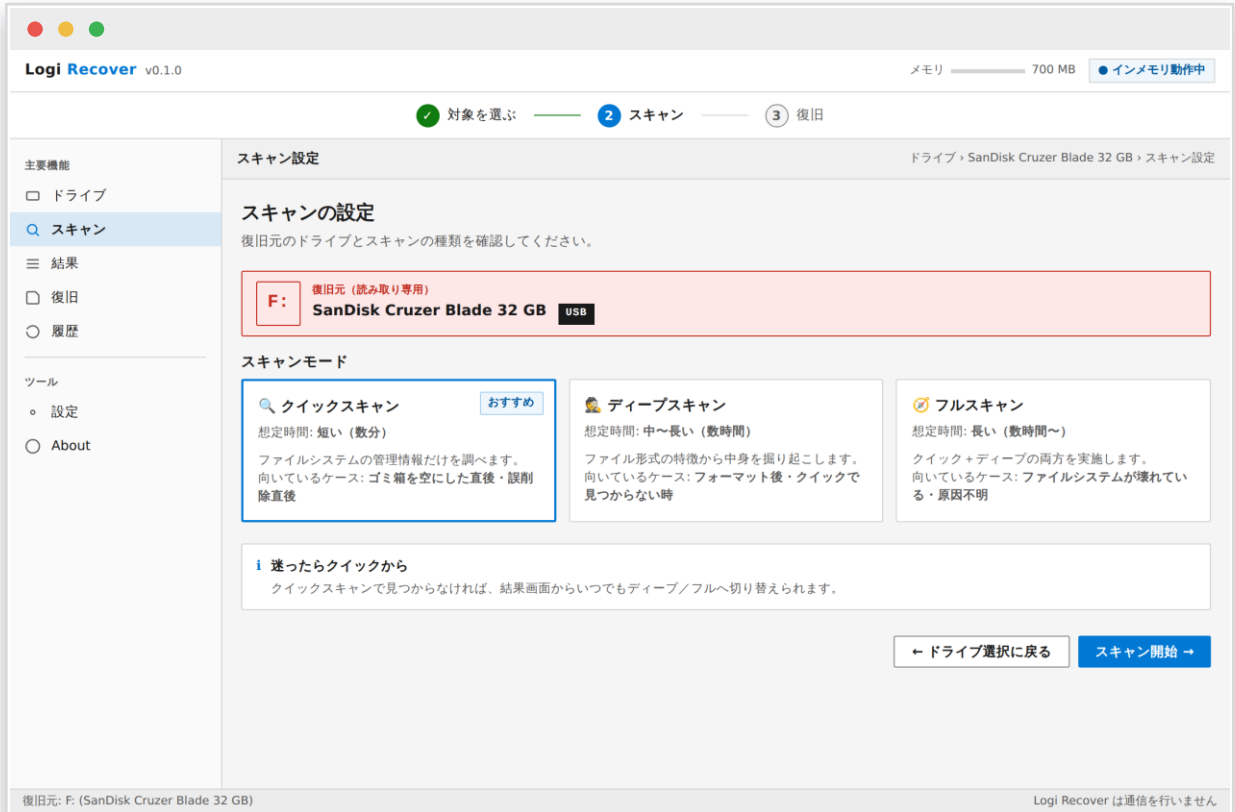
スキャン対象の選択と、スキャンモードの選択

F-02 対象の選び方

- ✓ 物理ディスク全体 → 配下の全パーティションが対象
- ✓ 特定のパーティションだけ → その範囲だけが対象
- ✓ 未割り当て領域 → パーティション外の領域も選択可

F-03 スキャンモード

モード	時間	向いているケース
クイック	短い	誤削除直後・ゴミ箱を空にした直後
ディープ	中～長い	フォーマット後・クイックで未検出
フル	長い	ファイルシステム破損・原因不明



こんなユースケースで使う

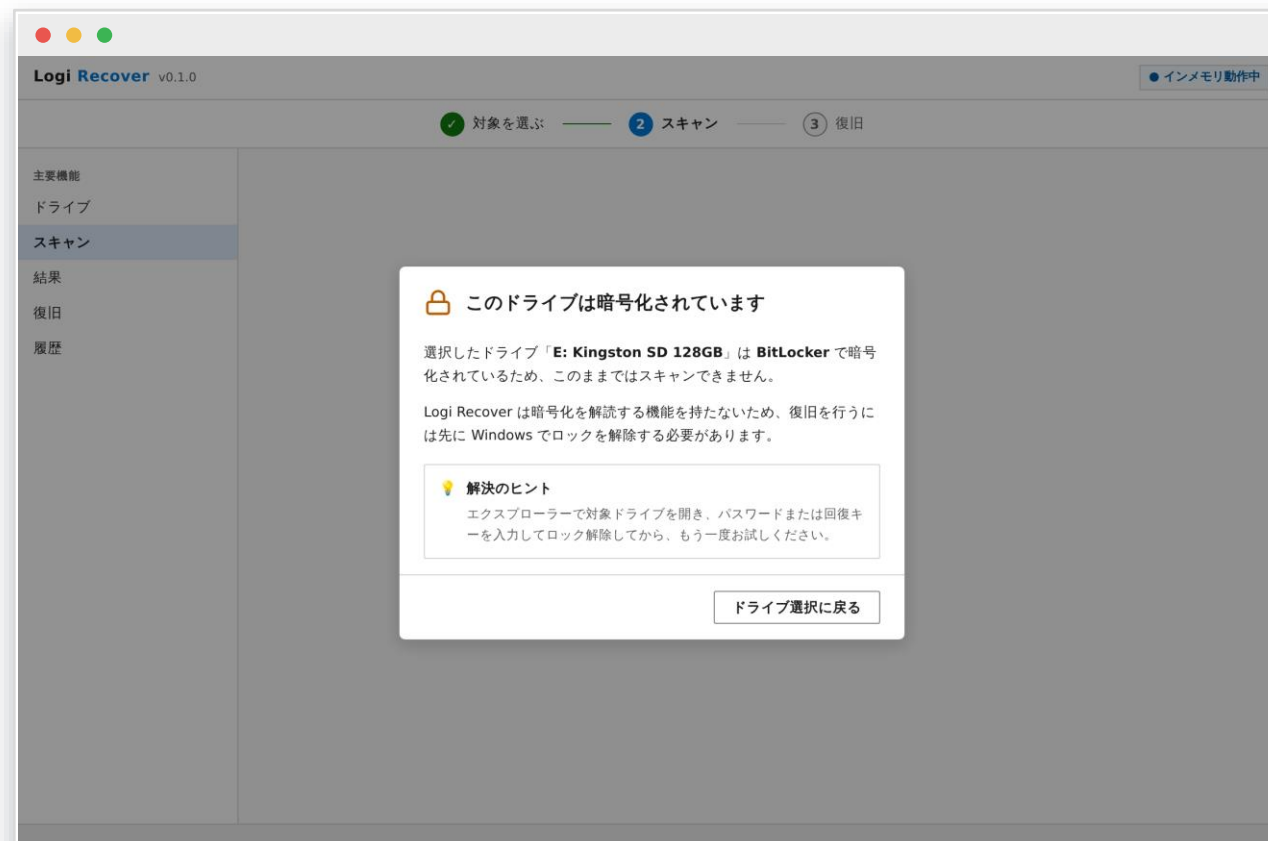
「消したのはついさっき」ならクイックで十分。「フォーマットしてしまった」「中身が全く見えない」ならディープ／フルを選ぶ、という判断がその場でできます。

こんな悩みに便利

『どれを選べばいいかわからない』人のために、各モードに想定時間と向いているケースを添えて提示。迷ったらクイックから、と案内します

暗号化ボリュームの検出 — 無駄なスキャンを未然に防ぐ

- ✓ BitLocker 等で暗号化されたドライブを選ぶと、スキャン開始前に自動検出
- ✓ 時間をかけたあとではなく、最初の時点で「復旧できません」と提示
- ✓ ロック解除のヒント（Windows でパスワード／回復キーを入力）を表示
- ✓ 鍵を持たない暗号の解読はスコープ外（できないことも正直に伝えます）



こんなユースケースで使う

暗号化された社用 PC のドライブや、パスワード付きの外付けドライブを誤って選んでしまったとき。



こんな悩みに便利

『何時間もスキャンしたのに結局読めなかった』という徒労を防ぎたい人に、最初に理由とともに伝えます。



スキャンを実行する

実際にディスクを読み取り専用でスキャンします。進捗はいつでも確認でき、途中で中断もできます。

2つのスキャン方式 – メタデータ走査とファイルカービング



F-04 クイックスキャン メタデータ走査

ファイルシステムの管理情報（NTFSの\$MFT、FATの削除マーク等）から削除済みエントリを検出。元のファイル名・パスを保ったまま復旧できるのが最大の強みです。



F-05 ディープスキャン ファイルカービング

ファイルシステムが壊れて使えない場合の方式。未割り当て領域を先頭から読み、ファイル形式ごとのシグネチャ（特徴的なバイト列）で境界を検出して復旧します。

対応ファイルシステム（v1.0）

ファイルシステム	クイックスキャン	ディープスキャン
FAT12 / FAT16 / FAT32	○ 対応	○ 対応
exFAT	○ 対応	○ 対応
NTFS	○ 対応	○ 対応



こんなユースケースで使う

『ファイル名やフォルダの場所も含めてきれいに戻したい』ならクイック。『フォーマットしてFS自体が変わった』『そもそも認識されない』ならディープ、と使い分けられます。

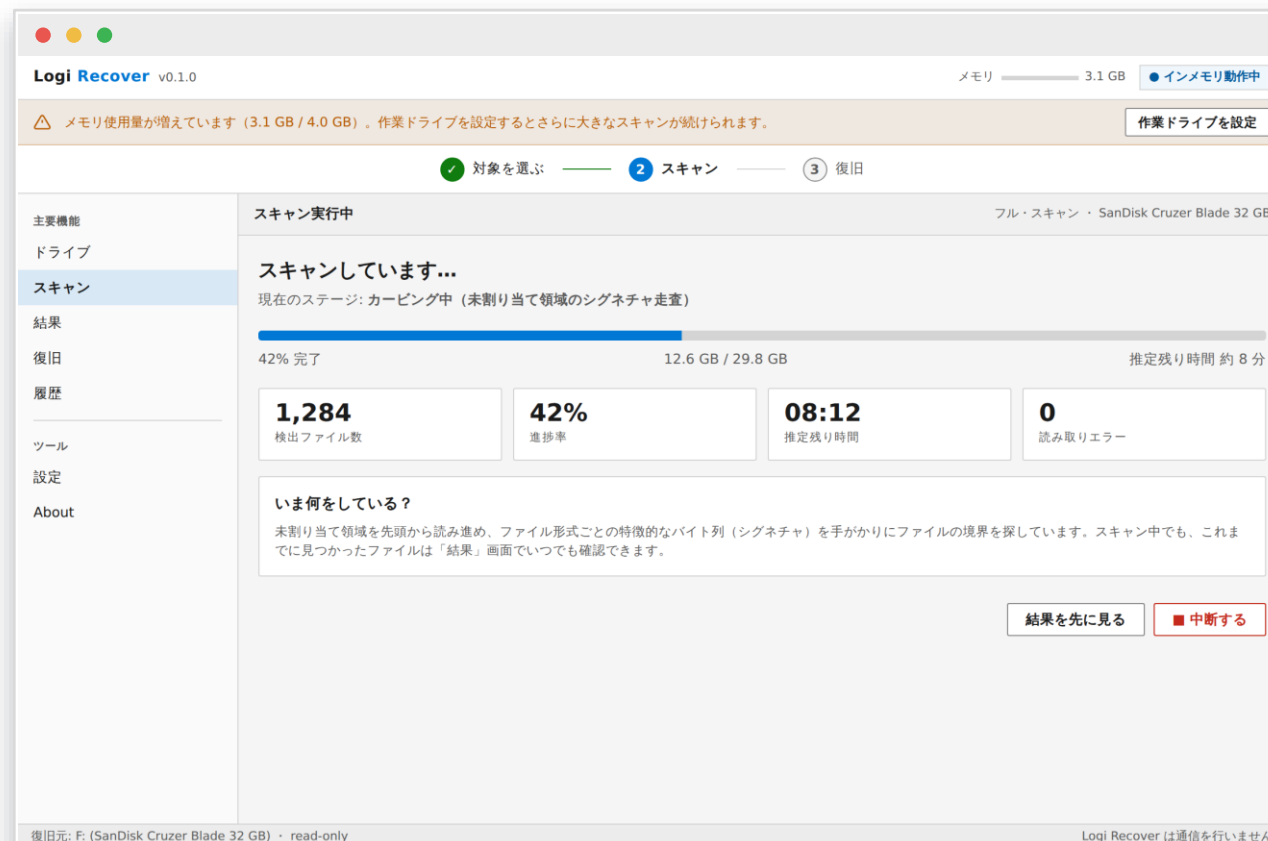


こんな悩みに便利

PhotoRecのような専門ツールでしか得られなかった深いレベルの復旧を、操作の裏側で自動的に行ってくれるので、専門知識がなくても両方の恩恵を受けられます。

進捗のリアルタイム表示と、中断・再開

- ✓ 進捗率・処理済み/総バイト数・推定残り時間・検出済みファイル数をリアルタイム表示
- ✓ 「いま何をしているか」（メタデータ走査中／カービング中など）も表示
- ✓ スキャン中でも画面遷移でき、それまでの検出結果を見ながら待てます
- ✓ 「中断」でいつでも安全に停止可能。同一セッション内なら続きから再開できます
- ✓ メモリ使用量が増えてきたら、上部バナーで作業ドライブの設定を提案します



こんなユースケースで使う

TB級の外付けHDDを深くスキャンしていて数時間かかる場合に、進んでいるかを確認しながら他の作業をしたいとき。



こんな悩みに便利

『画面が固まっているみたいで不安』という人に向けて、常に動いていることが分かる数字を表示し、いつでも安全に中断できる安心感を提供します。

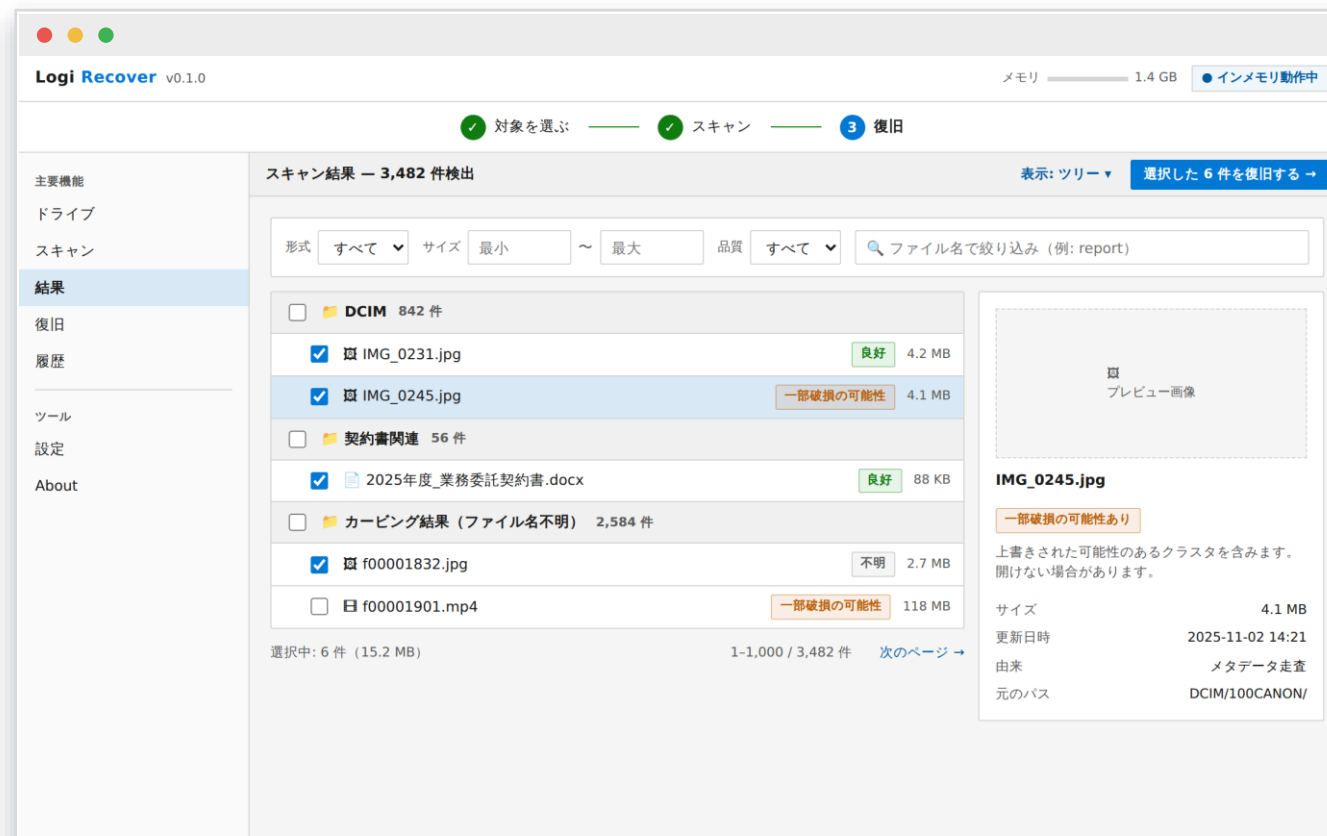


結果を確認する

見つかったファイルを絞り込み、中身を確認し、どれくらい元通りかを判断します。

結果の一覧表示と絞り込み

- ✓ パスが残っているファイルはフォルダ階層のツリーで、名前が失われたものは「カービング結果」としてまとめて表示
- ✓ 画像／動画／音声／文書／アーカイブ／その他の形式別カテゴリでも閲覧できます
- ✓ ファイル形式・サイズ・更新日時・ファイル名（部分一致）で絞り込み可能
- ✓ 大量件数でも 1,000 件単位のページ送りで軽快に閲覧できます



こんなユースケースで使う

3,000 件以上検出されたスキャン結果から、「あの契約書の Excel ファイルだけ」を素早く見つけたいとき。

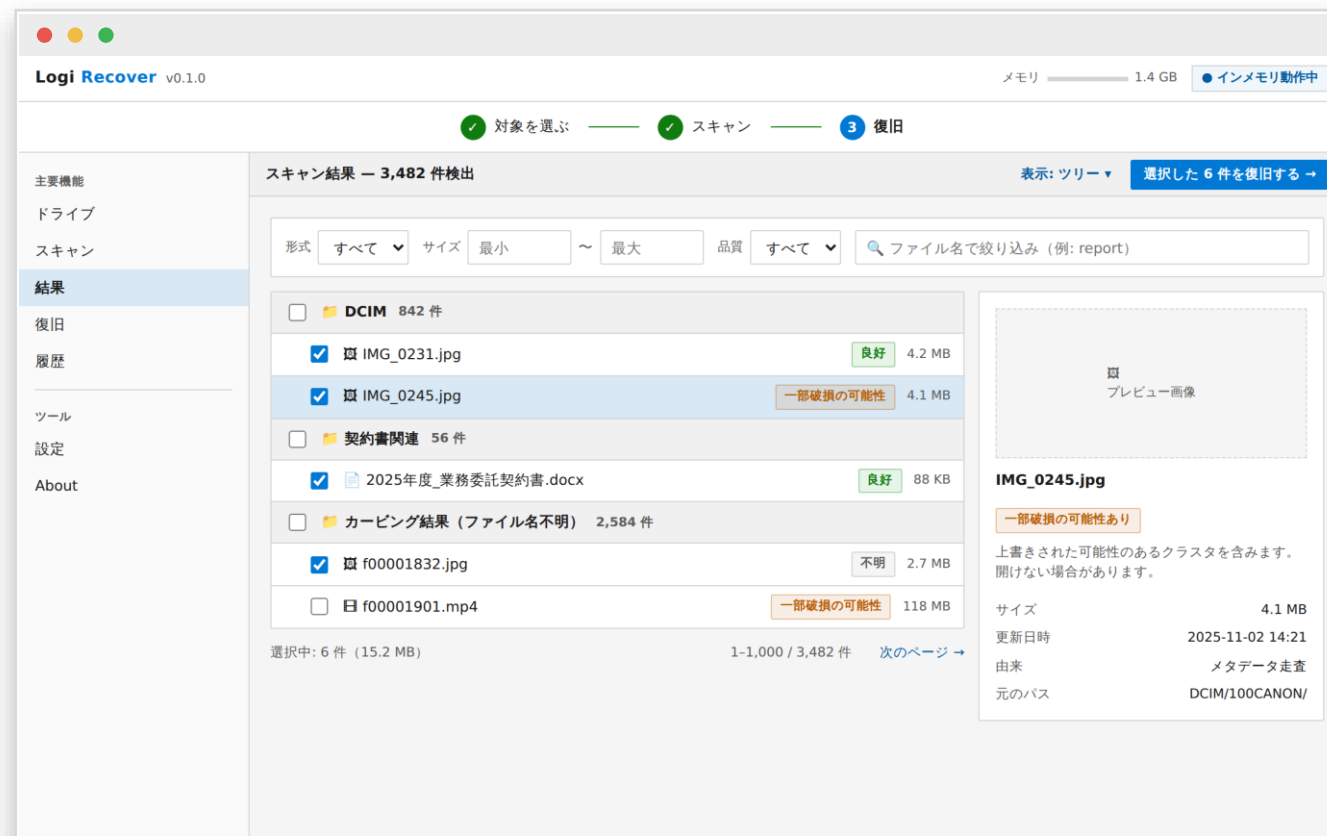


こんな悩みに便利

『何千件も出てきて目的のファイルがどこにあるか分からない』人のために、元のフォルダ構造や形式・名前で絞り込めます。

復旧前プレビューと、品質の目安

- ✓ 画像・テキスト・動画（先頭フレーム）を復旧前にその場でプレビュー
- ✓ 非対応の形式は、形式アイコンで代替表示されます
- ✓ 各ファイルに「良好／一部破損の可能性あり／不明」の3段階バッジ
- ✓ バッジの判断根拠（上書きの可能性、フッタ未検出など）も確認できます



こんなユースケースで使う

似た名前のファイルが複数見つかったとき、どれが本当に欲しいファイルかを中身で確認したいとき。まず「良好」なものだけ復旧したいとき



こんな悩みに便利

『これって本当に開けるの?』という不安に対して、復旧する前に目安を示し、時間の無駄になりそうな候補を避けられるようにします。



復旧する

見つかったファイルを、復旧元とは別のドライブに安全に保存します。Logi Recover の最重要ポイントです。

復旧先の選択 — 同じドライブは「選べない」仕組み

- ✓ 復旧元と同じ物理ディスクは自動でグレイアウトされ、赤バッジ「復旧元（選択不可）」がついて選べません
- ✓ 安全な候補には緑バッジ「保存先として推奨」が表示されます
- ✓ ローカル・USB等のリムーバブルに加え、NASなどのネットワークドライブも保存先候補に含まれます
- ✓ 候補にない場所も、自己責任でカスタムパス（UNCパス ¥¥server¥share 含む）を直接入力できます
- ✓ 候補にない場所も、自己責任でカスタムパス（UNCパス ¥¥server¥share 含む）を直接入力できます
- ✓ 万ーパスを直接入力しても、確定時に再検証されて拒否されます（二重の安全策）
- ✓ 警告ダイアログの連発ではなく、そもそも「選べない」UIで事故を防止します



こんなユースケースで使う

急いでいるときや操作に不慣れなときに誤って復旧元へ保存しそうな場面。オフィスのNASなど、ローカル以外の場所にまとめて保存したい場面。



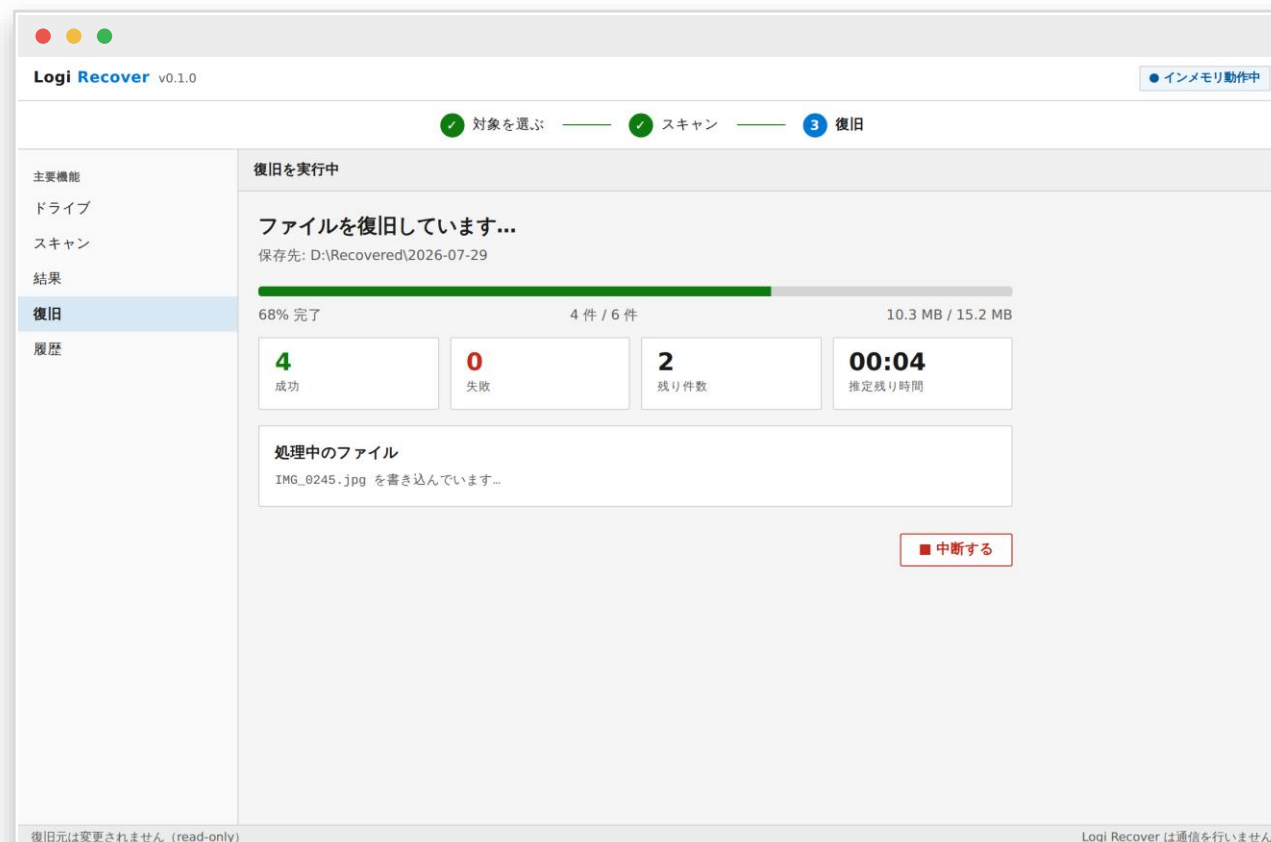
こんな悩みに便利

既存ツールで指摘される「うっかり復旧元に上書き保存して被害が広がる」二次被害を、注意書きではなく仕組みそのもので防ぎます。



一括復旧 — チェックを付けて、あとは待つだけ

- ✓ チェックを付けた複数ファイルをまとめて復旧先へコピーします
- ✓ 「すべて選択」「表示分のみ選択」「選択解除」のショートカットあり
- ✓ 選択件数・合計サイズを常時表示、進捗バーと推定残り時間も表示
- ✓ 元のパスが残るファイルはフォルダ構造を保ったまま復旧、失われたものは images/ 等の形式別フォルダへ自動整理
- ✓ 同名ファイルの衝突は連番 (name (1).jpg) で自動回避されます
- ✓ 一部だけ失敗しても、失敗したファイルだけを選んで再実行できます



こんなユースケースで使う

写真フォルダの中から必要な 100 枚だけ選んで、まとめて外付け HDD に保存したいとき。



こんな悩みに便利

『1つずつ手作業でコピーするのは大変』『失敗した分だけやり直したいのに全部やり直しになる』という悩みに、一括操作と失敗分リトライの両方で応えます。

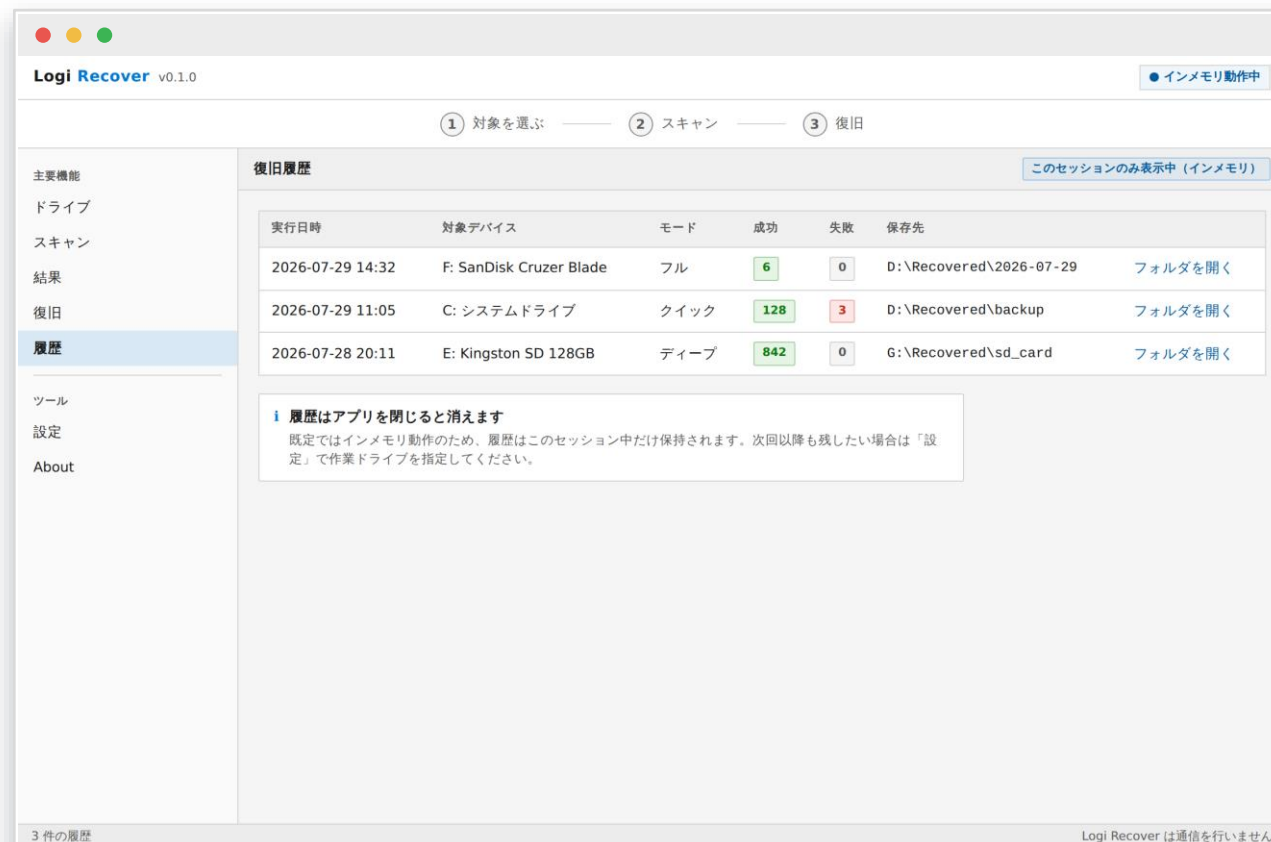


履歴を振り返る

この操作で「何を」「どこに」復旧したかを、あとから確認できます。

復旧履歴 — 「あれ、どこに保存したっけ」に答える

- ✓ 実行日時・対象デバイス・モード・成功/失敗件数・保存先パスを一覧表示します
- ✓ 一覧の行から、保存先フォルダをワンクリックで開けます
- ✓ 既定ではインメモリ動作のため、履歴はアプリを閉じると消えます
- ✓ 作業ドライブを指定している場合は、次回起動後も履歴が残ります（Chapter 7で解説）



こんなユースケースで使う

同じセッション内で何度か復旧作業を行ったあと、「さっき復旧したファイルはどのフォルダに入れたっけ」と振り返りたいとき。



こんな悩みに便利

作業を繰り返すうちに保存先を忘れてしまう、というよくある悩みを、探さなくても一覧で確認できるようにして解決します。



長時間の作業を楽しむ

TB級の大きなスキャンは何時間もかかることがあります。作業を後日に持ち越したいときのための機能です。

作業ドライブの設定 — 続きを次回に持ち越す

- ✓ 既定ではアプリを閉じると設定・履歴・スキャン結果はすべて消えます（インメモリ動作）
- ✓ これはCドライブ（システムドライブ）復旧時に、アプリ自身の書き込みが復旧候補のセクタを上書きしてしまう事故を避けるための設計です
- ✓ 「作業ドライブ」を任意で指定すると、履歴・設定・スキャン結果のスナップショットをそこに保存し、次回起動後も持ち越せます
- ✓ 復旧元と同じ物理ドライブは作業ドライブに指定できません（物理分離を自動検証）
- ✓ 指定を解除すれば、いつでも既定のインメモリ動作に戻せます



こんなユースケースで使う

システムドライブ（Cドライブ）のファイルを復旧したいとき。または、TB級のディスクを深くスキャンしていて今日中に終わらなさそうなとき。



こんな悩みに便利

『複数日にまたがる作業をしたいが履歴が消えるのは困る』という悩みに応えつつ、初めての人が誤ってCドライブを壊す事故もデフォルト設計で防ぎます。

スキャン結果の保存・読込 — スキャンは一度、検討は何度でも



- ✓ 作業ドライブ設定時のみ利用可能です（前ページのF-22が前提になります）
- ✓ 元のディスクが未接続でもメタデータの閲覧は可能（ファイル本体の復旧には再接続が必要です）



こんなユースケースで使う

1TBのディスクをディープスキャンして数時間かかったあと、「どのファイルを復旧するか」の検討だけ翌日ゆっくり行いたいとき。



こんな悩みに便利

『気に入るまで何度もスキャンをやり直したくない』『スキャンだけ終わらせて選ぶ作業は落ち着いてからやりたい』という悩みに応えます。



ディスクイメージを活用する

リードエラーが頻発する不安定なディスクを、安全にコピーしてから作業するための機能です。

ディスクイメージの作成と、そこからの復旧



F-17 ディスクイメージからの復旧

- ✓ 既存の .img / .dd 形式のイメージファイルを「ファイルから開く」で読み込みます
- ✓ 実ディスクと同じ流れ（スキャン→確認→復旧）で扱えます
- ✓ イメージファイルも常に読み取り専用でオープンされます



F-16 ディスクイメージの作成

- ✓ リードエラーが頻発する不安定なディスクの内容を、別ドライブへ丸ごとコピーしてから作業できます
- ✓ 出力先は復旧元と異なる物理ドライブが必須です
- ✓ エラー箇所を後回しにしながら読める部分を優先する、より高度な段階的コピーは今後のバージョンで強化予定です



こんなユースケースで使う

「読み込み中にディスクから異音がする」「エラーが頻発する」など、これ以上アクセスを続けると悪化しそうなディスクに出会ったとき。他のツールで作成済みの .img ファイルを使いたいとき。



こんな悩みに便利

『触るたびに状態が悪化しそうで怖い』という不安定なディスクに対して、まず安全な場所にコピーしてから何度でも試行錯誤できるようにします。



アプリの設定と情報

使いやすさに関わる設定と、アプリそのものについての情報です。

表示言語の切替と、ログの書き出し



F-19 言語切替

- ✓ 起動時は OS の言語設定を見て、日本語／英語を自動選択します
- ✓ 設定画面でいつでも切替可能。再起動不要で即座に反映されます
- ✓ 言語設定は既定ではセッション中のみ有効です（作業ドライブ指定時は次回以降も保持）



F-21 ログのエクスポート

- ✓ アプリ実行中の動作記録を、任意のフォルダへ手動で書き出せます
- ✓ 不具合の問い合わせ時に、状況を伝えるための資料になります
- ✓ エクスポート先は復旧元と異なる物理ドライブが推奨されます



こんなユースケースで使う

英語表示に慣れている人と一緒に PC を使っている場合。あるいは、アプリの動作がおかしいと感じて開発元に問い合わせたい場合。



こんな悩みに便利

『日本語だと一部の家族しか使えない』『不具合をうまく説明できない』という悩みに、言語切替とログという2つの手段で応えます。

バージョン情報と About 画面 — 信頼の裏付けをいつでも確認

- ✓ タイトルバー・About 画面にバージョン番号を表示します
- ✓ 同梱しているオープンソースソフトウェアとライセンスの一覧を明示します
- ✓ 「このアプリはインターネット通信を行いません」という約束を、About 画面でも改めて明示します



こんなユースケースで使う

不具合を問い合わせる際にバージョン番号を伝えたいとき。「本当にこのアプリは安全なのか」を使う前に確認したいとき。



こんな悩みに便利

『このアプリ、変なことしてないか不安』という気持ちに対して、隠さずに情報を開示することで応えます。



リファレンス集

対応環境・用語集・既存ツールとの比較など、必要なときに読み返せる情報をまとめました。

対応環境・対象範囲

項目	内容
対応 OS	Windows 10 21H2 以降 / Windows 11 (x64)
権限	管理者権限が必要 (起動時に自動で UAC 昇格)
メモリ	最小 4 GB、推奨 16 GB
画面解像度	1280 × 720 以上
ネットワーク	不要 (完全オフライン動作)

対応ストレージ

USB メモリー／SD カード／外付け HDD・SSD／内蔵 HDD・SSD (マウント済み・未割り当てパーティション含む)



対象外 (スコープ外)

- ✓ 物理破損したストレージ (基板故障・ヘッド異音等) の修理
- ✓ 暗号化ボリュームの解読 (鍵を持たない場合)
- ✓ 業務用フォレンジック機能 (証跡管理・レポート出力等)
- ✓ ネットワーク経由のリモートストレージ (NAS・クラウド) からの復旧 (※保存先としての利用は可能)
- ✓ OS 起動領域・MBR/GPT の修復

用語集 — 専門用語をやさしく

セクタ

ディスクが読み書きする最小単位（多くは512 バイト）

\$MFT

NTFS が全ファイルの情報を記録する管理台帳のようなもの

ボリューム

OS からドライブレターとして認識される単位

メタデータ走査

ファイルシステムの管理情報から削除済みファイルを探す方式

クラスタ

ファイルシステムがファイルを管理する単位。複数セクタの束

パーティション

1台のディスクを区切った、1つの区画

読み取り専用（read-only）

データを変更せず、読むことだけを行うアクセス方法

ファイルカービング

ファイル形式ごとの特徴的なバイト列を手がかりに、生データから直接ファイルを探す方式

既存ツールとの比較（詳細版）

ツール	強み	弱み
PhotoRec / TestDisk	無料・OSS。対応形式が幅広く read-only 動作	CUI 操作で初心者に難しい。ファイル名が失われる
Recuva	ウィザード形式で分かりやすい。フィルタ・プレビューあり	Windows 専用。深い破損には弱い
Disk Drill	UI が分かりやすい。ディスクイメージ作成に対応	有料。Pro 限定機能あり
EaseUS Data Recovery Wizard	3ステップ UI。RAW/フォーマット済みに強い	有料。製品によりクラウド連携あり
R-Studio	高機能。フォレンジック・RAID 対応	有料。UI が玄人向け
Windows File Recovery	Microsoft 純正・無料	CLI のみ。機能が限定的
Logi Recover	分かりやすい UI + 完全オフライン + 復旧元には書き込まない安全設計	対応 FS は NTFS / FAT / exFAT が中心（v1.0）

※ 各ツールの一般的な特徴の概要です。バージョンや料金プランにより異なる場合があります。



安全に、あなたのペースで。

Logi Recover は、これからも3つの約束を守り続けます。



完全オフライン動作

データは一切、外部へ送信しません



復旧元への書き込みゼロ

常に読み取り専用でアクセスします



分かりやすいUI

専門用語を強要しません

ご不明な点は、設定画面の「ログをエクスポート」でお手元の状況を保存のうえ、配布元へお問い合わせください。